


楽器の変遷から尺八の未来を考える

革	伝
新	統
尺	尺
八	八
Thinking about the future of the shakuhachi from the transition of musical instruments	
と	

2022年12月8日(木) 18:30開場
19:00開演

北とびあ・つつじホール 東京都北区王子1丁目11-1

- 主催 / 一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)
- 共催 / 北区文化振興財団 東京都北区
- 助成 / 文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業
アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 後援 /  公益財団法人 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION
- 協力 / 有限会社 邦楽ジャーナル 公益財団法人 大倉文化財団(オークラウ口)
泉州尺八工房(メタル尺八「AiredX」)

ご挨拶

師走に入り、心の裡でカウントダウンが始まる中、本日の「日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)」法人移行記念、第3回定期公演にご来場賜り誠に有り難うございます。

尺八と分類される楽器は大陸から伝わりましたが、日本で独自の進化を続け伝統音楽として確立されてまいりました。尺八曲は、その昔から「一寺一律」といって各地の寺に固有の吹き方と固有の旋律があると言われてきました。

さて、伝統と革新について探ると、楽器の製作方法、例えば「節の抜き方や、管の内径分布」など、また、奏者によって伝承される演奏方法は「伝統」として位置づけられます。一方、楽器の機能性の進化や、新しい奏法の領域を広げることは、「革新」と考えます。

今回は、楽器の変遷から尺八の未来を考える狙いで、貴重な響きを有する古代尺八の復元楽器。従来の「竹製の五孔尺八」。多岐にわたる改造尺八では、「竹製の六孔尺八」、「オークラウロ」、「メタル尺八」。それぞれの音色や、演奏技法の違いなどをお聴き比べいただき、併せてシンポジウムを組み込んだ欲張りな企画といたしました。どうぞ最後までお聴きいただき、ご堪能いただけますようお願いしております。

本年11月、当団体の野村峰山代表が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。このことは邦楽界・尺八界はもとより、当団体にとりましても栄誉あることと会員一同慶んでおります。これを機に尺八音楽に光を当て、価値を更に高めるべく代表と共に精進したく存じます。

最後になりましたが、このたびの公演開催にあたり、文化庁「ARTS for the future! 2」補助、「公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京」助成、「公益財団法人北区文化振興財団 東京都北区」共催。そして「公益財団法人大倉文化財団」・泉州尺八工房からのご協力、関係各位からのお力添えを賜りましたこと、心より感謝と御礼を申し上げます。

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)

プログラム

第 I 部

「蘇莫者(そまくしゃ)」古代尺八(復元楽器)

小濱明人

海童道 道曲「虚空」地なし尺八

素川欣也

琴古流本曲「下り葉の曲」尺八(五孔)

本手 関一郎 大賀悠司

替手 金子朋沐枝 芦垣泉盟

「祈りの舞」(大曾根浩範 作曲)オークラウロ(復元楽器)

小湊昭尚(ソプラノ) 大河内淳矢(アルト) 元永拓(バス)

一尺八の未来を考えるシンポジウム—

[ゲスト] 神田可遊 高橋久美子

[正会員] 大山貴善 菅原久仁義 野村峰山(ナビゲーター) 長谷川将山

第 II 部

「行雲」(牧野由多可 作曲)メタル尺八(AireedX)

第一尺八 石垣征山 第二尺八 田辺恵山 第三尺八 中島孔山

第四尺八 風間禅寿 第五尺八 長谷川将山

「片足鳥居の映像」(佐藤敏直 作曲)尺八(六孔)

岩田卓也

「射映—尺八6重奏のための—」(高橋久美子 作曲/委嘱初演)

尺八1(1.4寸/F#管) 坂田梁山 素川欣也 田辺恵山 長谷川将山

尺八2(1.6寸/E管) 石垣征山 田辺頌山 松本宏平 中島孔山

尺八3(1.8寸/D管) 小濱明人 菅原久仁義 関一郎 元永拓

尺八4(2.0寸/C管) 小湊昭尚 竹井誠 田野村聡 米谷和修

尺八5(2.1寸/H管) 風間禅寿 田嶋謙一 田辺冽山

尺八6(2.3寸/A管) 岩田卓也 大賀悠司 大山貴善

【第Ⅰ部】 古典曲解説 神田可遊

「蘇莫者(そまくしゃ)」 古代尺八(復元楽器)

唐の時代、シルクロードを通じた交易は飛躍的に発展した。活発化した文物の交流によって遠く西域の音楽もまた長安に運ばれて唐楽の中に取り入れられる。「蘇莫者」もその一つである。「蘇莫」とは「サマル」、つまり中央アジア・サマルカンド(現タジキスタン)のことで、「蘇莫者」はサマルカンドの楽曲であるという。さらにはるばる日本にも伝来し、現在も雅楽として演奏されるという奇跡的な楽曲である。

古くから聖徳太子がこの曲を尺八で吹いたところ山神が舞った、という伝説があり、その場所は亀の瀬(大阪府柏原市)とも生駒山ともいわれている。しかし近年の研究で、太子の時代にはいまだ唐に伝わっておらず、また尺八もまだ「発明」されていないらしいので、あくまでも「伝説」の域を出ない。

尺八界で「蘇莫者」が注目されたのは1929年、多忠告(竹名・吟童)が『三曲』に発表した尺八譜による。しかしこれはあくまでも筆筆の手を現代の尺八に翻案・編曲したものである。

今回演奏されるのは、古代尺八による再現である。龍笛を古代尺八に写した演奏で、遠く西域の音楽の香りを感じ取ることができるのではないだろうか。

海童道 道曲「虚空」 地なし尺八

海童道祖はかつて渡米の折、今生ではまみえることのなかった禅僧・千崎如幻の墓前に詣で「虚空」を吹定した。カリフォルニアの空は爽やかだったのだろう。「虚空の風が一切を物語る。言うことがあれば、風にきくがよい。書くことがあれば、風にきくがよい。それが老師の心を現す」と書いた。

今回の「虚空」は、横山勝也師が海童道祖から習われた海童道曲である。この曲はももとは明暗對山派の曲であった。對山は当初、出身の西園流そのまま、3つの高音を含む長大な曲として伝えていたが、晩年、二ノ高音の中間で上巻と下巻に分けた。「虚空」は上巻にあたる。なお下巻は「虎嘯虚空」。清水静山が對山派の曲を九州に広めた。道祖はその孫弟子にあたる。海童道祖は尺八本曲を大きく改変して道曲とすることが多いのだが、この「虚空」はほぼ原曲通り。変えるところのない曲だったのだろう。

「虚空」は普化禅師の示語「虚空来連架打」を現した曲である。今回の演奏は、地無しの2尺6寸管、冒頭、まっすぐに吹く「ツレー」の繰り返し、音がまっすぐに無心に飛んでいくイメージだ。張り詰めた静寂とともに躍動感あふれる曲を味わいたい。

琴古流本曲「下り葉の曲」 尺八(五孔)

「さがりは」は「下り葉」のほか「下り端」「下り波」「下り破」「降り葉」などの文字があてられる。

ポルトガル語による日本語解説『日葡辞書』(1603年頃)の「Sagarifa」(サガリハ)では「能または踊りで、人物の登場、あるいは大勢が一緒に出る際の奏楽の仕方」とされるが、ももとは能で天女などが舞い降りるときの出囃子のことで、笛を主体にした太鼓・大小の鼓の合奏であった。なお、当時「ハ」は「ファ」に近い発音だったことがわかる。「さがりは」はその後、日本全国の祭囃子、獅子舞、里神楽など民俗芸能から歌舞伎にも取り入れられ、一節切や尺八のレパートリーへと広まっていった。『糸竹初心集』には「ヒイ>>>ヒイ>」を主にした手を繰り返し「ほど拍子は笛の如く也」とある。

琴古流の「下り葉」は初代黒澤琴古が京都明暗寺門弟の松山から伝来したもの。祇園祭の節吹かれた調べという。笛の旋律を尺八に移したものであろう。ほぼ同じ旋律を2度吹くが、返しの冒頭部分の手がアレンジされている。替手は、返しの方を先に吹く形である。リズムカルだがゆったりとした演奏で、今回の演奏は本手と替手2人ずつの二重奏である。

豪華絢爛な祭空間の囃子の拍節的な曲の中で尺八らしさを表現する。

「祈りの舞」 大曾根浩範 作曲 オークラウロ

オークラウロという、ある意味新しい楽器のために曲を書くにあたり、この楽器の持つ表現力を引き出せるようなものはないか、と患っていたところ、「祈り」というキーワードに行き当たりました。祈りと一言に言っても、静寂の中でひとり向き合う祈りもあれば、延々と続くリズムの中でトランス状態になりながら行われる祈りまで、世界中には様々な祈りがあり、そんな祈りの様相を表しています。尺八にもフルートにもないオークラウロの持つ独特の音色感や表現力を感じていただければ幸いです。

※ソプラノ:2018年NAKANO FLUTE CUSTOM SHOP製作/アルト・バス:1939年頃,RUDALL, CARTE & CO, LTD LONDON製作

【第Ⅱ部】

「行雲」 牧野由多可 作曲

行く雲の流れをじっと見つめて居ると、過ぎ去った様々な想いが通りすぎて行く。

澄んだ空を美しくいろどる雲……

不思議な、光りの中に沈潜した鉛色の雲……

嵐の前ぶれを思わせる凶悪な雲……

人の世のさびしさや、苦しみを眺めて、ただ黙々と、止まるところなく過ぎて行く世界。

手のとどかない至高の境

此の作品は、そうした心象を、5本の尺八に託したもので、まるで点のような1つの音から、サツ広がる5部のからみ合いに至るまで、できるだけ、各パートの動きを他の従属物にしないよう、尺八というものの特質を考慮した作品にしたつもりである。(牧野由多可)

行雲(ぎょううん)は、牧野由多可(1930-2005)による2作目の尺八作品として、1980年に作曲された尺八五重奏曲である。委嘱・初演は、都山流尺八の人間国宝 故・初代 山本邦山の門弟5名で結成されたグループ「尺八1979」による。(長谷川 将山)

「片足鳥居の映像」 独奏尺八のために 佐藤敏直 作曲

片足鳥居は、長崎の坂本にある、片足で立ち続けている石の鳥居のことである。この鳥居は、原爆が投下されたという紛れもない事実を伝えている。この作品はそのことへの様々な観念と、片足で立っているというその力学的な「美」そしてそれらが生み出す不思議な空間などに誘発されて生まれた。

「射映」一尺八六重奏のための一 高橋久美子 作曲/委嘱初演

この尺八六重奏は、各パート全て異なる管(一尺四寸、一尺六寸、一尺八寸、二尺、二尺一寸、二尺三寸)による編成です。曲はいくつかのセクションに分かれていて、各セクションの目的ごとに名前をつけました。たとえば冒頭では「異なる管の同音から 同孔音へ」と書きましたが、簡単に説明すれば一尺八寸管の筒音の「口」の音はドレミの音階でいえば「レ=D」の高さです。が、一尺六寸の「口」の音は「ミ=E」の高さで「レ=D」の音を得るには「ロツレチハ」の指孔の中の「ハ」を押さえずにはいけません。尺八を演奏される方ならごく当たり前のことで、とりたてて説明することではないのですが、この曲では、同じ音を異なる管で演奏するのが目的なのではなく、まずそれを提示してから各管の同孔音に移行した時、当然すべての管の音が違う音となるわけですが、そうすることによって「口」には「口」の、「ツ」には「ツ」のキャラクターが明確に浮き上がってくるのでは?という試みがまず一番にありました。その他のセクションでもいささかマニアック?とも思える試みをちりばめました。さて「射映」についてですが「同じ対象が色々な方向や角度から見ることによって、異なる姿を現す」という意味だそうです。今回の「尺八」の試みと少しリンクするところを感じタイトルとしました。

「尺八」は唐で生まれ、唐の滅亡とともに中国では消滅していった。奈良時代、日本に伝来した尺八も唐楽の衰退とともに滅亡したかに見えた。しかし、楽人の手からはなれ「オーケストラ」から解放された尺八は、「手」「本手」という独特の曲をもつ「竹一管」の日本化した新たな「尺八」となって出現した。一つは芸能民から支配層にまで愛好され、一般民衆へと広まった一節切の尺八、もう一つは薦僧の門付けに用いられた三節切の尺八で、江戸中期に根節を使う形になり、現代の尺八に繋がる、わが国を代表する楽器へと変貌を遂げた。

●古代尺八

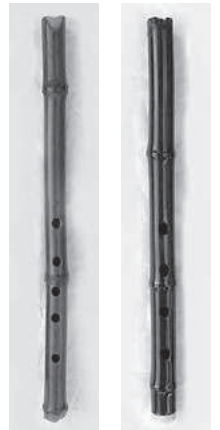
古代尺八とは3節6孔の尺八である。「尺八」の名は、唐の1尺8寸＝曲尺の1尺4寸5分余(44.2cm。狩谷掖斎『箋注倭名類聚抄』)によるものといわれる。

『唐書』によれば、唐が建国されて間もない629年、呂才が律管に合う12枚(本)の尺八を創ったとしている。吹き口を作るのに円筒の外側を切るといふ当時としては新しい楽器だったが、同様の歌口をもつ箏(やぐ)という3孔の縦笛を改良したという説がある。

日本では正倉院に8管と法隆寺に1管が保存されており、現物としてはこれしか残っていない。伝来の時期は諸説あるが、遅くとも聖武天皇在位の740年ころまでに唐から移入されたと推察され、東大寺大仏開眼供養會(752年)にも登場する。

平安時代に入っても尺八は雅楽の内、唐楽に用いられ、809年の太政官府に雅楽寮の楽師として唐楽師の中に尺八師が存在していた。しかし848年には唐楽生の尺八師は3人から2人へ、さらに10数年後、雅楽寮に1人とさらに減少。その後も遣唐使の中止、唐の滅亡(907年)に加え、唐楽の管楽器は龍笛が中心となったこともあり、衰退の一途だったのであろう。

『源氏物語』には「さくはちの笛」を吹き上げたというくだりがあるが、尺八の吹き手は楽人から公家へと移っていったものか。『今鏡』によると、1158年正月、宮中に「内宴」という宴が100年ぶりに復活し、「内裏にて尺八を吹く」「古譜をもて吹きたりける」「尺八といいて吹きたえぬるふえを、このたびはじめて、ふきいだしたり」したことが書かれている。つまり実質的に1000年を過ぎた頃には古代尺八の命脈は尽きていたことになる。



古代尺八 (レプリカ) 三節切 (古代尺八)

●一節切尺八

一節切の伝来として、外來說もあるのだが、おそらく日本で初めて創られたものであろう。節が1つ、手孔は古代尺八から1つ減って5つ。上野堅實は「古代尺八の第2孔を捨てることによって6孔から5孔になったと」推測している。歌口は竹の根に近い方にある、本末が逆の尺八である。内部に漆塗りはなく、歌口に角は入れない。竹の表皮を薄く削り、樺を巻くが、この樺巻が同じものが二つとないといわれるほど微妙に違う。

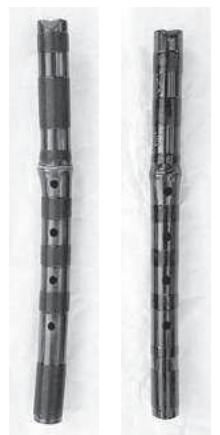
鎌倉時代に入って、『教訓抄』(1233年)に「短笛は尺八をいう」「目闇法師、猿楽之を吹く」とある。この尺八は一節切だったのではないかと思われる。吹き手が室町期には田楽法師や琵琶法師といった芸能集団に受け継がれていったものであろう。

「1尺8分に切る故、此の名を附くといふ」というが、現存する一節切のほとんどが1尺1寸1分の黄鐘切。長さも太さもほぼ同じ、つまり音律も音色もほぼ同じという笛で、「十二調子之次第」(1566年)にあるように調子笛としても使える楽器であった。

室町時代後期、豊原統秋の『体源抄』(1511年)には一節切の図が描かれている。一節切はこうした楽家から増阿や頓阿などの田楽法師、宗長などの連歌師、一休や雪舟など時代を代表する人々に広がっていき、能にも取り入れられる。さらに中興の祖・大森宗勲が宗左以降の多くの系統の曲を集め、江戸初期にかけて一世を風靡して、曲数も5調子80曲にも上った。多くの大名や文人もそのサロンに集い、ついには後陽成天皇へも一節切を献上するほどの勢いであった(紀州徳川家蔵「霊音」は後陽成天皇の宸筆)。

譜はフホウエヤイで、本来「手」と称する尺八の本曲に相当する短い曲を吹いていたが、だんだんと俗謡や糸曲の流行とともに「乱曲」吹奏が流行する。『糸竹初心集』(1664年)がベストセラーになった背景がこれである。一節切の大衆化の一方で、支配層の芸能としての魅力はなくなっていったものと思われる。戦国乱世を身をもって体験した人々が退場すると、ついに、あれほど大衆を熱狂させた一節切も、1700年を過ぎるころから一気に終末を迎える。一節切本来の音楽「手」がほとんど理解されなくなった時点で命脈がつかたともいえるだろう。

それでも豊前・中津藩の人々(主に医師)に吹き継がれ、幕末に至り神谷潤亭らによって「小竹」として再興が図られるが、明治に入って細々と続いた伝承もついに幕を閉じた。



小竹 (神谷潤亭作) 一節切 (原呈斎作)

●三節切尺八(文中「薦僧」「虚無僧」が混在するが、ご容赦ください。「虚無僧」は1600年頃から使われ出した)

節が3つ、手孔は5つの直管で、外見は古代尺八と一節切の合体した形だが、一節切とは逆に根に近い方が管尻である。古代尺八が平安中期以降長い潜伏期を経てニューバージョンとして登場したのではないかと感じられる。

「虚無僧尺八といふは、長さ1尺8寸に切るゆゑ、尺八といふとぞ」という。しかし現存するものはそれより短いものがほとんど。太さ・長さ・手孔の大きさ・目割もまちまちのものがある。一節切と違ってまるで統一感がない。『糸竹初心集』で「いづれも呂律の調子にあはせたる物とは聞えず」というのもうなずける。

三節切については、ほとんど研究の対象にもなつてこなかった。その存在すら知られていなかったといえる。1997年の『三節切初心書』の発見が研究進展の大きな契機となった。その内容は「琴三味線にのる手」「拍子の手」、つまり「乱曲」の譜8曲である。ただ末尾に「三節切上」とあるので「下」があった可能性がある。これが「本手の大事もおおく候」という「本手」の譜だったのではなからうか。同書では譜はフホウエヤイ、一節切の譜を援用したものと思われるが、一節切とは違い、一つの指法で「オウツ」「カン」(乙・甲)の2オクターブが出せる、画期的かつ合理的な楽器であった。「折、ごろ、息なやし」と表現の幅も広がった。「ごろ」とは不人という虚無僧が吹き出したという「コロコロ」のこと。

「薦僧」という表記が現れるのは1486年の『大内家壁書』だが、『三十二番職人歌合』(1494年)に描かれる「薦僧」は3節の尺八を吹いていることから、薦僧の尺八＝三節切だったと認められる。また京都明暗寺の虚竹禅師像も3節の尺八を吹いている。

三節切は薦僧の専有するもので、『色道大鏡』(1678年)に「こも僧もつばら『れんぼながし』を吹く。みよぎりの尺八は普化僧これを専とす」とし、京・島原の八千代太夫が、恋慕ながしを三節切で吹いていたことを記している。また『近代艶隠者』(1686年)に「谷中の三重切男」の物語があるように一般にも広まっていったようだが、その広がりとは同時代の一節切の足元にも及ばなかった。

三節切の曲は、一般には「恋慕」が知られていたが、そのほかに『糸竹初心集』に、れんぼながし、さむや、井ツ、よし田、『人倫重宝記』(1696年)に、恋慕ながし、吉野、すががき、りんぜつ、滝おとし、鶴の巣ごもりなどの記述がある。当時はいずれも「乱曲」の扱いだっただと思われる。

●尺八

三節切と区別するためここでは単に「尺八」とする。三節切との違いは、歌口の節とゴ口節・根節があるということ。歌口に水牛や鹿の角を入れ、内部に漆を塗ることも増えてきた。つまり現在まで続く尺八の形である。ただ、興国寺文書「海道本則」(1629)に「尺八はこもの重宝を以て四節四穴と表するなり」とあり、歌口の節のある尺八もあったと推測される。「明暗寺什物目録」には「尺八」と「三節切」が混在する。1671年から明暗寺住職であった月山作の三節切2管、「尺八随一の名人作」春谷作三節切1管が記される一方、月山所持の「尺八」2管もあることから、1600年代中期ころから歌口の節と根節を使った尺八が登場するとともに、1700年代の初めには三節切にとって代わることになる。

しかし、わざわざ竹を掘り、根に穴をあけ、その上にちゃんとした音を出すという難しい細工の尺八になぜ移行していったのか、この大転換が不思議なところ。しかも、三節切同様、長さ・太さ・手孔の大きさもまちまち。3孔を1分下げた近代風尺八もすでにあった。中継ぎも登場して4本つなぎまでであるのに、寸法が1尺6寸7分とか、中途半端な寸法がほとんど。1尺8寸に統一してみんなで一緒に吹きましょう、などという考えはほとんどなかったようだ。まさに遠心力が働いている。

何を求めて難問にチャレンジしたのかについて言及したものがないのだが、1700年前後は虚無僧の大転換期にあっている。「普化宗」の自称、留場の形成、虚無僧風呂の撤退など新体制への脱皮を図る一環の中で、かなり意図的に三節切を切り捨てたかみえる。そして衰退する一節切と入れ替わるように尺八がブームとなる。吹き手の方は、江戸では旗本と浪人が主導する形で、伊達姿にあこがれる町人や農民に広がっていく。市中に尺八指南所ができ、本則の取次などが行われた。指南所も本則も虚無僧寺の許可が必要で、当然お金も虚無僧寺に入る。つまり虚無僧寺を頂点とした家元制度が確立していく。

さて譜は、上方では三節切と同様フホウエヤイだったが、江戸では岡秀益『尺八通俗集』(1769年)が出版されたものの、同時期の細川月翁の覚書譜「こくう」とも全く違っており、定まった譜が存在していなかった。琴古譜を定めたのは2代目琴古とその門人・宮地一閑、池田一枝とされているが、それは1800年に近い頃であろう。さらに上方と江戸を除くと譜のない地域がほとんどだった。曲数が少なければ譜も不要だったか。

曲は、従来の古伝三曲とそのバリエーションから、菅垣、獅子、滝落としなどのかつて乱曲とされていた曲が本曲化したもの、さらに作曲された曲も加わり琴古流のように36曲に整備され、上方でも寄竹流36曲が整備される(ただし半分は乱曲とされた)。

竹の目割は江戸では十割、奥州は九半割、上方はその2つが混在していた。時代的には幕末になると多少求心力が働いてくる。長さは寸刻みになり、地域的にみると、津軽は2尺、九州は1尺9寸など何となく統一感が出てくる。さらに江戸、上方ともに巨管が増えてくる。久松風陽、近藤宗悦の影響が大きかった。竹の根を摺り落とさない尺八も出てきて、浮世絵にも描かれる。そこにも美を求めたのであろう。



一月寺109世瑞鳳宗祥の尺八(4本に分かれ、根節も見える)

▼明治以降の尺八

明治に入ると、さらに求心力が高まる。全国一律的に1尺8寸管が主流になり、中継ぎにして(ヘソは江戸期とは逆に下管になる)、音律を調整するため下地を入れる調律管となっていく。江戸期から盛んだった三曲の尺八が隆盛を迎えたことが背景となった。追分の全国的流行から他の民謡の尺八伴奏もそれを後押しした。また、作曲も盛んとなり、洋楽器との合奏など、明治・大正期に尺八音楽のレパートリーは格段に広がっていき、現代尺八に至る素地が形成された。竹一管で始まった日本の尺八もついにはオーケストラとも共演する。

一方で各地に残された本曲(古典本曲)の伝承と古管への関心も、今や世界的広がりをもち、尺八の魅力を発揮する原動力の一つとなっている。

▼尺八の改良

大正・昭和に入ると、音域を広げ、西洋音楽のピッチに対応できるような「改良楽器」が考案される。代表がオークラウロである。フルートを縦吹きにした形のキーを使う楽器で、新鋭尺八家を魅了したが10数年で廃れ、幻の楽器となった。一方、竹製の7孔尺八は現在でも活躍中だ。

尺八の材質は、古代尺八で淡竹のほかには玉、牙、石などがあるが、これらは竹を模した工芸品的なものであろう。その後の尺八は基本的に真竹である。竹以外では、戦前ベークライト製尺八が考案される。割れやすいという竹の弱点をカバーするもので、非常によく鳴る(大体、改良楽器はよく鳴る)。戦後は、木管やプラスチック管、塩ビ管などが大衆化に一役買い、その後もメタルやグラスファイバーといった新素材管が出現して、尺八の表現力を豊かにしている。

竹をベークライトでコーティングしたハイブリッド尺八(日清両政府専売特許)



オークラウロについて

田中知佐子(大倉集古館主任学芸員／オークラウロ・プロデューサー)

オークラウロ(Okraulo)はホテルオークラの創業者として知られる男爵・大倉喜七郎(1882~1963)が、自らも吹奏した尺八の音色で西洋音楽を演奏したいという理想を持って、大正末期から昭和初期(20世紀初頭)にかけて考案・制作した金属製の多孔尺八です。

昭和3年(1928)に没した父・喜八郎より大倉財閥を受け継いだ喜七郎は、特に日本のホテル業に功績を遺すかわら、文化活動に熱心に取り組み、とりわけ音楽方面への援助を惜しみませんでした。10代の頃に英国・ケンブリッジ大学への留学した経験を元に、オーケストラや作曲コンクールの後援など我が国における西洋音楽の普及に貢献する一方で、日本の伝統音楽を深く愛好し、大正末から昭和の初めにかけて、新邦楽・大和楽を創設するとともに、新楽器・オークラウロの考案・制作を進めました。喜七郎は自ら尺八の吹奏を得意としていましたが、当時使われていた楽器の簡素な造りに飽き足らず、西洋音楽の十二音律を正確なクロマチック・スケールで演奏できるように、これを改良したいと思立ちました。こうして試作された「大倉式尺八」がオークラウロの名で公表されたのは、初期構想より十数年後の昭和10(1935)年でした。オークラウロの名は大倉の姓と古代ギリシアの豎笛アウロスに因んで、オークラウロ協会の理事長も務めた音楽評論家の伊庭孝により名付けられました。

尺八の指孔の数を増やし、かつ広げたことに伴い、フルートに用いられていたベーム式のキー装置が取り入れられるとともに、材にも竹ではなく銀などの金属が用いられるようになりました。尺八式の歌口を持つ頭部管以外はフルートとほぼ同じ構造ですが、細部の構造において尺八に近付けるための工夫がなされており、キー装置の形状は縦笛の仕様に微調整され、首振りなどの尺八ならではの奏法が可能ないように背面には指掛が設置されています。

当初は、イギリス、ロンドンのフルート・メーカー、RUDALL CARTE社に、喜七郎自ら当地に赴くなどして製作を依頼し、標準管のソプラノのほか、ピッコロ、ソプラノ、アルト、バスの5種が作られました。翌年には『オークラウロ教則本』も発刊され、銀座・七寶ビル2階にあったオークラウロ協会の事務所に練習生が集められると、喜七郎のほか、古賀一聴、岸星聴、福田真聴(蘭童)、荒木和聴(四代古童)ら新進気鋭の若手尺八奏者が中心となって師範を務めました。1930年代半ばから40年代にかけて、奏者の養成や楽団による定期演奏会などの活動が盛んに行われましたが、戦後の財閥解体により大倉家のバックアップが難しくなると、演奏の機会が激減し、長らく忘れ去られた幻の楽器となってしまいました。

平成23(2011)年夏、大倉喜七郎の五十回忌を前に、大倉集古館で展覧会「大倉喜七郎と邦楽一“幻の豎笛”オークラウロを中心に」が開催され、これを契機に同館を中心としたオークラウロの再生プロジェクトが開始されました。昨年10周年を迎えたプロジェクトの活動の中で、ソプラノ管の再製作のほか、戦前にRUDALL CARTE社で制作されたアルト管やバス管の修理を経て、和洋の様々な楽器とのアンサンブルによるコンサートを年間数回ずつ開催しています。その間には、大倉集古館から2枚のオリジナル・アルバムをリリース、またビクターエンタテインメントから3rdアルバム《オークラウロ 蘇る幻の笛一はるかな航路》をリリースするなど、その活動は着実に広まりつつあります。2013年には公益財団法人大倉文化財団がオークラウロの商標登録を行い、楽器の再製作・販売にも取り組んでいます。

約80年前の幻の楽器の再生を経て、未来に向かうオークラウロの可能性を、皆様とともに育ててゆけたらと願っています。



荒木和聴・古賀一聴・大倉聴松・岸星聴・福田真聴1936年



オークラウロを演奏する大倉喜七郎とピアノ:伊庭孝1936年

高橋久美子

KAYU KANDA

[尺八研究家]

1947年新潟県生まれ。三条工業高校→中央大学卒業。最初、佐藤貞観師主宰の『一吹庵』東京道場(導主=石橋愚道師)で神如道の古典本曲と外曲少々を学ぶ。その後、坂口鉄心師に就き、宮川如山及び高橋空山の本曲を学び、鉄心師没後、東明義(海童道江月)師に就いて、海童道曲を学ぶ。そのほか、年二回ばかりだが、錦風流を後藤清蔵師、越後明暗流を小山峰崎師に、また山上月山師にも九州の曲などを「口尺八」で学ぶ。要するに「本物」に習いたかった。



高橋久美子

KUMIKO TAKAHASHI

[作曲家/特別会員]

クラシックはもとより邦楽、演劇、ミュージカル、映像音楽等ジャンルを超えた作曲活動を国内外で行っている。また邦楽曲においては、必ずその楽器を所有し習得してから創るというスタイルをとっている。作曲を田辺恒弥氏に師事。作曲家グループ<邦楽2010>代表、日本音楽集団団員。平成30年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞CD「解体新語」(邦楽ジャーナル)。



Photo by Koshu ENDO

野村峰山

HOZAN NOMURA

父の手ほどきで尺八を学び、のち人間国宝・初代山本邦山に師事/高校在学中に都山流尺八本曲コンクール全国大会にて金賞受賞/NHK邦楽技能者育成会卒業/尺八リサイタル、峰山会「竹の響き」コンサートの開催/NHKTV・FM放送や、オーケストラとの共演「ノヴェンバー・ステップス」など国内外で活躍/平成6年度文化庁芸術賞、平成26年度芸術祭レコード部門優秀賞、愛知県芸術文化選奨文化賞、名古屋市民芸術祭審査員特別賞、都山賞など多数受賞/東京藝術大学音楽学部邦楽科非常勤講師、愛知県立芸術大学非常勤講師(2005年度~継続中)、竹琳軒大師範、都山流尺八講師、現代邦楽作曲家連盟、日本三曲協会会員、山本邦山尺八合奏団団員、新しい風のメンバー/国際尺八フェスティバル・プラハ2017WSF 2018 in Londonに招待演奏



芦垣泉盟 KOMEI ASHIGAKI

10歳より琴古流尺八を田中康盟師に師事/東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八(琴古流)専攻卒業、同大学大学院音楽研究科修了、在学中、人間国宝山口五郎師に師事/NHK邦楽技能者育成会第45期卒業/NHK邦楽オーディション合格/日本伝統文化振興財団主催「邦楽技能者オーディション」合格、ビクターよりオリジナルCD「琴古流尺八・芦垣泉盟」発売中/国立劇場主催公演「明日をになう新進の舞踊」邦楽鑑賞会「掛合の美」(漱石と邦楽)出演/平成26年度 文化庁芸術祭オープニング「伝統芸能の交流」出演、皇太子ご夫妻御前演奏/文化庁芸術祭主催公演「アジア・太平洋地域の芸能」出演(於国立劇場おきなわ)NHK-FM「邦楽のひととき」出演多数、海外演奏、CD録音多数参加/現在、朝日カルチャー横浜校、読売カルチャー川口校各講師/(公社)日本三曲協会、琴古流協会、各会員。竹盟社評議員、泉盟会主宰



石垣征山 SEIZAN ISHIGAKI

幼少のころより父・石垣征山に師事し、その後山本邦山(人間国宝)に師事/東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業/東京邦楽コンクール、くまもと全国邦楽コンクール、都山流尺八本曲コンクールなどで最優秀賞を受賞/孤高な存在感、魂を揺さぶる圧倒的な演奏力、幅広い音楽性に裏付けられた叙情的な表現力は高い評価を受けている/映画のエンディングテーマや伊勢志摩サミットの公式PR動画テーマ曲提供など、作曲活動も行っている



岩田卓也 TAKUYA IWATA

愛知県常滑市出身/12歳より尺八をはじめ岩田恭彦に師事/東京芸術大学音楽学部邦楽科入学後人間国宝 山本邦山師に師事/2004年第10回「長谷校校記念全国邦楽コンクール」にて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞/2006~11年、ドイツ、ドバイ、ルーマニア、グアム・サイパン、サンフランシスコ、インドネシア、シンガポール、中国、フランス、ハンガリー、韓国、ニューヨーク、イタリア、カタール、クエート、サウジアラビアで公演/2009年 東京邦楽コンクール1位受賞と日本伝統文化振興財団賞の受賞/2011年東京フィルハーモニーオーケストラとソリストとして共演/2012年、尺八世界を決める大会「国際尺八コンクール」が開催大会で優勝/箏や尺八だけでなくクラシックからロック、ジャズ、歌謡曲、POPS、太鼓や津軽三味線、声楽、ダンスユニットなどとの競演は年を数えることに今も増え続けている。



大賀悠司 YUJI OGA

1986年生まれ、東京都出身/中央大学文学部卒/東京芸術大学大学院修士課程修了/NHK邦楽技能者育成会54期修了/18歳で尺八を始め、これまで菅原久仁義師、本間豊堂師の各氏に師事。また、東京芸術大学大学院在籍中、琴古流尺八を竹村皓盟師に師事/長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞受賞/市川市文化振興財団新人演奏家コンクール邦楽部門優秀賞受賞/NHK邦楽オーディション合格/学習院大学和楽器サークル「玉緒」・首都大学東京三曲会講師



大河内淳矢 JUNYA OHKOCHI

桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業、NHK邦楽技能者育成会55期卒業/自作曲を中心に演奏活動を行うほか、和楽器の世界を越えたアーティストとの共演も積極的に行う/海外公演を多数成功させ、2012年に外務省在外公館長表彰を授与される/国内にて開催された国際音楽祭にも多数出演、イベントや楽曲プロデュースも手がける/テレビ番組、CMや舞台音楽、アーティストのレコーディング等にも参加/オリジナルCDを3枚リリース/2017年より尺八とフルートを融合した楽器「オークラウロ」の奏者としても活動している



大山貴善 OYAMA KIZEN

神奈川県出身、琴古流尺八を松山龍盟師に師事、琴古流尺八、普化本曲、根笹流錦風流を三橋貴風師に師事/父、大山妙善の影響で臨済宗大本山国泰寺 妙音会に残る古典本曲数曲を伝承/NHK邦楽技能者育成会第55期修了、NHK邦楽オーディション合格、平成31年度文化庁新進芸術家国内研修員/出雲大社 平成の大遷宮奉祝行事にて奉納演奏を務めるなど寺社仏閣での奉納演奏多数。ドイツ、韓国などで海外公演も行う/様々な古典本曲を学ぶことで古典尺八音楽に對して多面的な視点を持ち、それを自らの音楽性へと反映。古典尺八を重視しながらも新たな尺八の表現を模索し続けている/琴古流尺八貴風会会員、公益社団法人 日本三曲連盟会員、琴古流協会会員、専門学校ESPエンタテインメント大阪 和楽器特別セミナーJPC(ジャパニーズポピュルカルチャー)特別講師。



小濱明人 AKIHIRO OBAMA

高松市出身/琴古流尺八および古典本曲を石川利光に師事/民謡尺八を米谷智に師事/NHK邦楽技能者育成会修了/NHK邦楽オーディション合格/尺八新人王決定戦優勝/05年、『歩き遍路四国八十八カ所奉納演奏Tour』を敢行/12年、ACCの助成によりJNYに留学/15年、山下洋輔&LOTUS POSITIONとして中欧ツアーを行う/18年より文化庁芸術祭参加公演「小濱明人 リサイタル」を連続開催/国際尺八フェスティバル(シドニー・ロンドン・プラハ)、ラ・フォル・ジュルネ(フランス)等の国際音楽祭に招待参加/海外公演も多く、計36カ国で行っている/古典本曲や自作曲を中心としたソロ活動の他、民謡の伊藤多喜雄率いる「TAKIO BAND」等数々のグループに参加/「古典本曲集」寂靜光韻「LOTUS POSITION with 山下洋輔」自作曲集「波と楳と」他計8枚のCDを発表/虚無僧研究会会員/学習院大学非常勤講師



風間禅寿 KAZAMA ZENJI

1997年東京都調布市生まれ/小学校四年生より尺八を始める/第38回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門にて文化庁長官賞を受賞/「親しみやすい邦楽」をコンセプトに作編曲、演奏、動画制作活動などを行なっている/東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八専攻を卒業し現在プロ活動中/尺八アンサンブル風雅竹韻のメンバーとしてNHK「にっぽんの伝統」やテレビ朝日「題名のない音楽会」等に出演/藤原道山に師事/http://kazamazenji.com



金子朋沐枝 KANEKO TOMOE

東京芸術大学音楽学部卒業、同大学大学院修了/在学中、故人間国宝山口五郎師に師事。スウェーデン・トルコ・韓国等々、海外公演を数多く手がけ、国内ではリサイタル・コンクール助演、舞台、各種イベントにゲスト出演する/NHK邦楽オーディション合格/邦楽ユニット「あさきゆめみし」ではCD「あさきゆめみし」「月夜野」「風韻」をリリース、また尺八二胡ピアノユニット「Blue Owl」でもCD「Blue Owl」をリリースする



小湊昭尚 AKIHISA KOMINATO

民謡小湊流家元の長男として生まれ、5歳より両親の手ほどきを受け舞台活動を開始/1985年少年少女民謡大会において最優秀賞受賞/1995年より故 人間国宝 山口五郎氏に師事/1997年東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八専攻に入学、2001年3月同大学卒業/2004年avexからZANでメジャーデビュー、2008年全米デビュー/2012年3月11日ソロアルバム「レクイエム」を発売/2015年よりNHK World「Blends」の音楽総合プロデューサーとして番組に参加/2017年3月天皇皇后両陛下タイご訪問の際、タイ前国王連綿ピデオ両国共同製作プロジェクトに参加/伝統邦楽、古典に加え、民謡、ポップス、ジャズなどジャンルを問わずテレビ、ラジオ、ライブ、コンサートなど国内外で活動中/エリック・マーティン、スーザン・ボイル、石井竜也、Gackt、EXILE、など多数アーティストのレコーディング、共演、アニメやゲームのサウンドトラック等に参加/[ZAN]/[ALUAKE]/[SUNSET]/[YO]等のユニットでも活動中/個人、ユニット等合わせて300曲以上リリース/オークラウロ奏者としても活動/新聞、雑誌、テレビ等メディアにも取り上げられ、コンサートも開催



坂田 梁山 RYOZAN SAKATA

香川県生まれ、神戸大学在学中より岸原周山・川村泰山に師事/NHK邦楽技能者育成会第30期を卒業し、第13回都山流本曲コンクール金賞・文部大臣賞受賞他、各種コンクールで受賞/鬼太鼓座公演、劇団四季ミュージカル、片岡鶴太郎主演ミュージカル参加に加え、小椋佳、南こうせつ等のコンサートにも参加し、様々なミュージシャンと共演し、海外公演も数多く行う/CD録音、テレビ(題名のない音楽会他)、ラジオ(邦楽ジョッキー他)には多数出演/尺八を中心としたバンド「ニュートラル」を率いてCD制作をする等、古典から現代音楽に至るまで幅広く活動を行う/都山流尺八大師範、桐朋学園芸術短期大学日本音楽尺八科非常勤講師



関 一郎 ICHIRO SEKI

琴古流尺八を横山勝也氏に師事、NHK邦楽技能者育成会18期卒業/1975年バンムジークフェスティバル「日本伝統楽器による現代演奏コンクール」独奏の部第一位優秀賞受賞/以後国内外で演奏活動を始め、特に「進歩節考」(柴田南雄)は東京混声合唱団など多くの合唱団と共演し、海外でも数多く演奏する/近年Jordi Savall(ピオラダガンバ奏者)が企画する西洋古楽器による公演「フランシスコ サビエル/東洋への道」に参加し2005年よりヨーロッパ、北米で10回程公演する/また作曲の分野では青島広志、水野修孝、松平頼暁、高橋悠治の諸氏に教えを受け1995年及び99年には文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞、第2回国立劇場作曲コンクール優秀作品賞受賞(1999年)/現在邦楽器グループオーラ会員



竹井 誠 MAKOTO TAKEI

1956年東京生まれ、埼玉大学数学家卒/在学中より日本音楽集団尺八奏者/尺八を宮田耕八郎、藤崎重康、笛を4世望月太八に師事/入団後、篠笛、能管に取り組み、1980年代後半より長唄囃子方として活動。数少ない、尺八、笛兼任奏者として日本音楽集団、林英哲、仙波清彦主催の十数回の海外公演に参加/一方で隔年で東京芸術大学で現代邦楽の笛の指導に当たる/現在、日本音楽集団団員。三橋美香子と蒙古班メンバー。フルート、ピッコロの研鑽にはげみ、ライブ、セッションのステージに立つとともに、オーケラウロ式縦吹フルートの一種であるシャクルートを独立したジャンルとして、確立させられるに役立たいと考えている。



田辺 恵山 KEIZAN TANABE

16歳より父・田辺頌山に手ほどきを受け尺八を始め、藤原道山に師事/東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了、都山流尺八楽会師範試験に首席登壇、NHK 邦楽オーディション合格/東京コレクション、IMF・世界銀行年次総会、東京スカイツリー開業レセプション、東京五輪、パラリンピック四者協議レセプション等多くイベントに出演/2018年、Sony Musicより女性尺八奏者5人組ユニットbamboo flute orchestra「尺八Classic」でメジャーデビュー/桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修尺八専攻非常勤講師、文化庁文化芸術による子供の育成事業、東京都文化発信プログラム講師参加



田辺 洩山 RETSUZAN TANABE

岡山市出身、中央大学哲学科卒、NHK邦楽技能者育成会25期卒/故山本邦山(人間国宝)に師事/リサイタル、海外公演(アメリカ・スペイン・スウェーデン・ポーランド・オーストラリア・フィリピン・韓国・ブラジル・アルゼンチン等)も多い/「水の音原風景」(Bamboo)、「森の音、水の響き」(2000Waternet Sound)の2枚のリーダーアルバムをリリース/日本の伝統色を音に「色彩の間」・「山流尺八の会」(風姿有韻)・和楽器を紹介し「日本の音遊び」・「水、自然、伝統楽器がテーマ」の「水の音原風景」・「森の音、水の響き」・「語り」の音のささやき、言葉の響き・アート・作曲コラボレーション「...ing」・東西古楽を探る「音のかけら〜音の記憶」などプロデュース公演も数多く開催しており、「J」系尺八山本邦山音楽の軌跡」(CD-BOX)では和傳社プロデューサーとして平成29年度文化庁芸術祭大賞を受賞/現在東京を中心に企画制作および舞台・放送・録音・指導などの活動を行っている/(公財)都山流尺八楽会/(公社)日本三曲協会/(一社)SPJN理事



中島 孔山 KOZAN NAKAJIMA

福島県相馬市出身/3歳よりピアノを始め10歳より尺八を始め/東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学尺八専攻を卒業/ドイツ、シンガポール、マレーシア、ペトナムなど海外にて多数演奏を行う/野村峰山に師事/ソニーミュージックより発売されたBamboo Flute Orchestra「尺八Classic」にてメジャーデビュー/都山流尺八楽会准師範、師範試験首席登壇/日本三曲協会会員



松本 宏平 KOHEI MATSUMOTO

大阪府出身、京都大学文学部・NHK邦楽技能者育成会53期卒業/琴古流尺八・古典本曲(横山勝也伝)及び尺八奏法を石川利光師に師事/根笠新錦流風古典本曲(神如大伝)を神令師に学ぶ/2005年 全国邦楽コンクールにおいて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞、同年 イタリア・トスカーナ "ブッチーニフェスティバル"へ招聘されゲストコンサート/2011年より古典本曲のみによるコンサートシリーズ「古典本曲の現在」を企画・主宰/東京を拠点に「名もなき虚無僧たちの残した遺産:古典本曲」を軸としながら、ジャンルにとらわれないポータル的な活動を続け、様々なアーティストとの共演やラジオやテレビの録音・放送も多数行っている/松本宏平尺八教室主宰・財団法人松原市文化情報振興財団主催「尺八教室」講師・首都大学東京非常勤講師・JEUJIAミュージックサロン講師/(公社)日本三曲協会会員



米谷 和修 WASYU YONEYA

1963年、福岡県八女市出身(本名/中村和義)福岡大学邦楽愛好会に所属し尺八を始め、渡辺鈴士氏に尺八の手ほどきを受けた後、民謡会の重鎮、米谷威和男氏に師事/1991年、第37期NHK邦楽技能者育成会に入会と同時に上京し、米谷威和男氏の内弟子となり 全国の民謡の習得に励む/以来常に米谷会を中心に居て活動し、代稿古・民謡誌への執筆・楽譜発行に関わりと共に、幾多のテレビ・ラジオ番組に尺八・笛奏者として出演し活躍している/米谷威和男氏他界の後は、2001年より尺八奏法全般を宮田耕八郎氏に師事、2008年からは、海童道祖・横山勝也の流れを汲む古典本曲を素川欣也氏に師事し研鑽を積んでいる/テレビ出演の他、レコーディング・ステージ、更には海外公演も多い/日中韓の民族楽器で構成された「オーケストラ・アジア」、邦楽アンサンブル「晁」のメンバー



菅原 久仁義 KUNIYOSHI SUGAWARA

都山流、琴古流を学び、その後横山勝也師に師事/77年全日本三曲コンクール第1位入賞/80年「伝統楽器による現代演奏コンクール」にて独奏部門及び 合奏部門ともに第2位入賞/95年CD「雨月譜」を世界発売(以降CD8枚をリリース)/流派を超えた教則本、教則ビデオ、教則DVDを制作し普及に注力/また演奏活動に於いてもリサイタルや海外演奏を多数行っている/「菅原邦楽研究会」及び「仁の会」主宰/東京、浜松、札幌にて教授/北海道大学非常勤講師



素川 欣也 KINYA SOGAWA

尺八演奏を横山勝也、尺八製管を玉井竹仙に師事/日本音楽集団(1981~1990)及び、オーケストラアジア(1997~2017)の演奏活動に参加/尺八古典本曲を軸とした国内外での演奏活動の他、スタジオミュージシャンとして、演歌、ゲーム音楽、映画音楽、CM音楽、等さまざまな分野で活躍している。



田嶋 謙一 KENICHI TAJIMA

12歳より尺八を始め、父である田嶋直士に師事/2006年 東京芸術大学邦楽科尺八専攻を卒業/2009年~2012年 東京芸術大学邦楽科助手/2014年初のリサイタルで第69回文化庁芸術祭新人賞受賞/日本各地、及び海外で古典を中心とした数々の演奏を行う/ジャズ、クラシック、ポップス等様々なジャンルの音楽とコラボレート、東京芸術大学や立正大学などの教育機関及び各種イベントの尺八に関する特別講義やアウトリーチ、演奏企画、音楽劇などでの脚本・演出・音楽監督などの活動のかたわら、尺八の普及のための水道管尺八を用いたワークショップなどの講師をつとめ、尺八の可能性を広げるべく多方面にわたって活躍に活動している/「田嶋謙一オーケストラ」主宰、NPO法人邦楽普及協会理事、「和楽器オーケストラあいおひり会員、日本三曲協会」会員



田辺 頌山 SYOZAN TANABE

幼少の頃より父、恵山に手ほどきを受け、早稲田大学入学と同時に初代山本邦山(人間国宝)に師事/NHK邦楽技能者育成会第27期卒業、NHKオーディションに合格/ローマ法皇「ヨハネ・パウロII世」謁見演奏、カーネギー・ホール公演をはじめ海外での演奏も多く、様々なジャンルの国内、海外の演奏家と共演し好評を博す/また、中学校教科書指導書「中学音楽 音楽のおくりもの(教育出版)」の作成に協力/ステージ、レコーディング、指導活動につとめ、尺八本来の持ち味を大切に、ジャンルにとらわれない幅広い活動を行っている/「長谷川悦記記念第1回全国邦楽コンクール(1993)で最優秀賞を受賞/CD「静かなる時」[Voyage]「Den3」をリリース/都山流尺八楽会竹琳軒大師範 田辺頌山ホームページ <http://www.shozan.net/>



田野 村聡 SOH TANOMURA

1982年岡山県倉敷市生まれ、岡山市出身/島根大学総合理工学部卒/少年期よりギター、電子音楽制作、DJ等の音楽遍歴を経た後、祖父の形見である楽器を手に18歳より尺八を始め/在学中、琴古流尺八を賞月氏、現代邦楽を田辺洩山氏、田辺頌山氏に師事/上京以後、菅原久仁義氏に師事/NHK邦楽技能者育成会第51期修了/第17回長谷川悦記記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞/NPO法人日本音楽集団団員/2016年より同団理事/「おあさんといっしょファミリーコンサート 音楽博士のうららかコンサート」(NHK)、「芸能人格付けチェック」(テレビ朝日)等のTV出演、ゲーム「龍が如く 維新!」(SEGA)等の録音参加の他、著名アーティストのサポート等多方面で活躍/既存の枠にとらわれない奔放なスタイルで尺八の可能性を追求している



長谷川 将山 SHOZAN HASEGAWA

神奈川県大和市出身/1994年12月16日生まれ/藤原道山に師事/東京藝術大学卒業、同大学院音楽研究科修了/大学院音楽研究科では、初代中尾山編纂「ヴァイオリン音譜」の研究を行い、現在も同音譜の研究及び収集を続けている/同声会賞、第28回市川市文化振興財団新人演奏家コンクール邦楽器部門最優秀賞受賞/平成28年度公益財団法人青山音楽財団 奨学生/平成30年度 文化庁新進芸術家国内研修員修了/(公財)都山流尺八楽会 師範、都山流道山会、日本三曲協会会員/法政大学三曲会尺八講師/藤原道山尺八アンサンブル「風雅竹韻」、和楽器オーケストラ「あいおい」、アンサンブル室町、Sony Music Entertainment「STAND UP! ORCHESTRA」メンバー/Youtubeにて多重録音企画「全員将山」を展開中 長谷川将山Youtubeチャンネル(<https://www.youtube.com/channel/UCptH63bSxYnJK3Lv20HhdDQ>)



元 永拓 HIROMU MOTONAGA

山口県出身、琴古流尺八を大橋裕晴氏、菅原久仁義氏に師事、幼少期より9年間にわたり海外で生活/4歳よりバイオリンを学んでいたが、長い海外生活の中で自然に生まれた日本文化への深い興味から、大学へ入学と同時に尺八を始め/上智大学外国語学部、NHK邦楽技能者育成会第44期卒業/2012年CDアルバム「WASABI」にてメジャーデビュー/国際交流基金派遣事業などこれまでに海外30ヶ国40都市で公演/NHK BSテレビ「地球テレビ エルムランド」や「J-WAVE MUSIC CEREBRATION」などTV・ラジオにも出演/アニメ「NARUTO」やNHK大河ドラマなどレコーディング多数/現在、NPO法人日本音楽集団理事兼運営委員長、上智大学筆曲部講師、古典本曲から多様な楽器やアートとコラボレーション、作曲など幅広く活動している 公式ウェブサイト<http://motonagahiromu.com/>



■一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク [JSPN]

【顧問】 川瀬順輔

【特別会員】 研究者／作曲家／制作者／有識者 ※50音順／13名

愛澤伯友 神田可遊 黒河内茂 小菅大徹 志村哲 高橋久美子 田中隆文 谷垣内和子 野川美穂子 藤本草 前田智子 森重行敏 長尾敬

【正会員】 演奏家 ※50音順／79名

青木琳道 芦垣泉盟 阿部大輔 イオ・パヴェル 石川利光 石垣征山 石倉光山 井本蝶山 岩田卓也 大賀悠司 大河内淳矢 大山貴善(理事) 岡田道明 小濱明人(理事/副代表) 柿塚香 風間禅寿 加藤奏山 金子朋沐枝 神永大輔 川崎貴久 川俣夜山 川村葵山(理事) 川村泰山 菊地河山 鯨岡徹 國見昌史 倉橋容堂 小林純 小湊昭尚 酒井帥山 阪口夕山 坂田梁山 佐藤將山 設楽瞬山 柴香山 白鳥良章 菅原久仁義(理事/副代表) 関一郎 善養寺恵介(理事) 素川欣也 瀧北榮山 竹井誠 武田旺山 田嶋謙一 田中康盟 田中黎山 田辺恵山 田辺頌山(理事) 田辺冽山(理事/事務局) 谷保範 田野村聡(理事) 津上弘道 徳丸十盟(監事) 友常毘山 中島孔山 難波竹山 野村 峰山(理事/代表) 野村幹人 長谷川将山(理事) 原郷界山 樋口景山 藤田天山 藤原道山 洲上ラファエル広志 古屋 輝夫 本間豊堂 眞玉和司 松本宏平(理事) 見澤太基 水野香盟 三塚幸彦 三橋貴風 元永拓 森田柁山 山口連山 山崎北山 吉越瑛山 米澤浩 米谷和修

■ 第3回定期公演スタッフ

実行委員長 野村峰山

事務局 田辺冽山* 松本宏平

舞台／進行 大賀悠司 大河内淳矢 大山貴善 田嶋謙一* 長谷川将山

感染対策 石垣征山 岩田卓也 小湊昭尚 坂田梁山 田野村聡* 元永拓

受付 野村峰山* 小濱明人 田辺恵山 田辺頌山

撮影／編集 川村健司

企画／制作 田辺冽山

※「*」はチーフ

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)インフォメーション

第9回 尺八奏法講座

—プロから学ぼう尺八奏法—

講師：小湊昭尚

2023年2月18日(土)

料金

一般 ¥6,000 / サポーター・学生 ¥5,000

《回数券(3回)》

一般 ¥15,000 / サポーター・学生 ¥12,000

コンサート配信

配信メディア：ツイキャス

尺八サロンコンサート Vol.4/Vol.5

—未来に残したい私達の尺八音楽—

期間 2022年12月29日(木)～2023年1月12日(木)

11:00～《尺八サロンコンサートVol.4》

13:00～《尺八サロンコンサートVol.5》

料金 一般:各¥2,000 / サポーター:各¥1,500

第3回定期公演

<伝統尺八と革新尺八>

期間 2023年3月18日(金)～4月1日(金)

料金 一般:¥2,500 / サポーター:¥2,000

※詳細は後日公式ホームページにてお知らせ致します

※演奏曲はホームページ(アーカイブ)でご確認ください

JSPNサポーター(賛助会員)募集

会員	年会費	特典
個人	¥2,000(一口)	・全ての催しへのチケット割引 ・販売物の割引や特典
U25(25歳以下)	¥3,000	・全ての催しへのご招待 ・販売物の割引や特典
法人/団体	¥20,000(一口)	・全ての催しへのご招待 ・販売物の贈呈

※詳しくはホームページをご覧ください。

法人/団体サポーター

一城銘尺八(小林一城) 06-6389-2033 ichijou@pop06.odn.ne.jp

精華銘尺八 北原精華堂(北原郁也・北原宏樹) 075-231-2670 info@k-seikado.com

澤山銘尺八(尾崎澤山) 03-3387-5679 taku108koubou@sunny.ocn.ne.jp

竹勇銘尺八工房(岡寺竹勇) 0834-21-7444 info@chikuyu.com

萌山銘尺八(村田萌山) 0771-65-0162

容山銘尺八(引地容山) 03-3980-1741 info@yozan-hikichi.co.jp



お申込み・お問い合わせはメール・ホームページよりお願い致します

【Eメール】 jspn.sec@gmail.com

【公式ホームページ】 <https://www.jspn.org/>



一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク

JSPN

Japan Shakuhachi Professional-players Network

サポーター 〈賛助会員〉 のご案内

JSPNは新たな尺八音楽発信の源として2018年に設立された、国内唯一のプロ尺八演奏家団体です。国内外での活発な尺八音楽の情報発信、そして豊富な経験を元に柔軟な発想や演奏力をもって新たな提案を行っていくために、「サポーター(賛助会員)」への御協力をお願い申し上げます。

特典

- ・ 主催イベントの割引・優先販売
- ・ サポーター限定情報の配信
- ・ 動画などサポーター限定コンテンツも多数配信予定
- ・ その他JSPNの活動に関する優先的なご案内

年会費

個人:1口 2,000円以上／団体・法人:1口 20,000円以上／U25:3,000円
※ご寄付も随時受け付けております。

会員期間

4月1日より翌年3月31日まで

入会方法

- ・ メール(jspn.sec@gmail.com)
 - ・ ホームページの専用フォーム(<https://www.jspn.org/supporter>)
 - ・ 本紙下部の申込書
- のいずれかの方法でご入会いただけます。
詳細は裏面をご覧ください。

※詳しくは裏面もご覧ください

JSPNサポーター申込フォーム

会員区分 個人 団体／法人 U25

(フリガナ)
氏名

(フリガナ)
団体／法人名

※団体／法人会員のみ

住所 〒

電話

メール

※PCから受信可能なアドレスをご記入ください

U25サポーター新設！

若い尺八愛好家を応援！25歳以下の方がご入会できるサブスク型賛助会員「U25サポーター」を新設いたしました

- ・年会費3,000円でJSPNの全ての催し(配信含む)へ無料でご招待いたします。
※事前にお申し込みが必要です。
- ・申し込み時点で25歳以下の方が入会できます。
- ・ご入会申し込み後にJSPN事務局より年齢確認資料の提出と年会費のお支払いについてご連絡いたします。
- ・年齢確認後、直近イベントからご招待いたします。
- ・年度ごとに更新が必要となります。(年度切り替え期にJSPN事務局よりご案内を差し上げますので、それに従って更新手続きをお願いします)
- ・26歳の誕生日が属する年度末(3月31日)まで有効。
- ・開催会場の関係でご招待人数の上限を設けることがあります。その際はお申し込みの先着順とさせていただきますので予めご了承ください。

特典

- 個人サポーター [年会費 一口 2,000円 以上]
 - ・主催イベント(配信含む)の割引
 - ・販売物の割引・特典・優先販売
- 法人・団体サポーター [年会費 一口 20,000円 以上]
 - ・全ての主催イベント(配信含む)へご招待
 - ・販売物の贈呈
 - ・ホームページや広報物でのご芳名(代表者／連絡先)の掲載(※非掲載も可)
- U25サポーター [年会費 3,000円]
 - ・25歳以下限定
 - ・全ての主催イベント(配信含む)へご招待
 - ・販売物の割引・特典・優先販売

入会方法

以下のいずれかの方法でお申し込みください

- メール(jspn.sec@gmail.com)にて以下の必要事項を明記の上お申し込みください
 - ・氏名 ・メールアドレス ・電話番号 ・住所 ・会員種別(個人／団体・法人／U25)
 - ※メールアドレスはPCから添付ファイルが受信可能なものをご記入ください
- ホームページ(<https://www.jspn.org/supporter>)の申し込み専用フォーム
 - ※右QRコードからもアクセスできます
- 本紙の表、申し込みフォームへご記入の上、演奏会・イベント時に受付へお渡しください

